

## 論文番号 37

担当

滋賀医科大学 福祉保健医学講座

題名 (原題/訳)

Alcohol consumption and Risk for increased aortic pulse wave velocity in middle-aged Japanese men.

日本人中年男性のアルコール摂取量と脈波伝導速度増加のリスクについて

執筆者

Nakanishi N, Yoshida H, Kawashimo H, et al.

掲載誌 (番号又は発行年月日)

Angiology 2001; 52: 533-542

キーワード

Alcohol consumption, Aortic, Pulse Wave Velocity, Body Mass Index, Smoking,

要旨

背景

アルコールは、脂質代謝や凝固・線溶系に好ましい影響を与えている反面、飲酒による血圧の上昇は動脈瘤破裂の原因でもあり、その動脈硬化性疾患との関連については議論がある。脈波伝導速度は非侵襲的に大動脈の弾性を評価することが可能であり、その増加は動脈硬化の進展と関連している。アルコール摂取量と脈波伝導速度の関連を検討した。

方法

35歳から59歳の大動脈脈波伝導速度 (PWV) の増加を伴っていない (8m/sec 未満)、かつ降圧剤を服用していない日本人勤務者男性 1,358人を9年間追跡し、PWVの増加とベースラインの飲酒習慣との関連を検討した。脈波はセンサーを右大腿動脈と左頸動脈に装着して測定した。追跡期間中のいずれかの検査でPWVが8m/sec以上になった者をPWVの増加ありと定義し、他の危険因子 (年齢、BMI、喫煙、平均血圧値、総コレステロール、HDLコレステロール、中性脂肪、血糖、ヘマトクリット) を比例ハザードモデルで調整した相対危険度を求めた。

結果

10,598人年の追跡期間の間に359人にPWVの増加を認めた。非飲酒者と比べたPWV増加の相対危険度は、飲酒量0.1~22.9g/日では1.05 (95% C.I. 0.70-1.58)、飲酒量23.0~45.9g/日では1.58 (95% C.I. 0.89-1.91)、飲酒量46.0~68.9g/日では1.77 (95% C.I. 1.24-2.53)、飲酒量69.0g/日以上では1.81 (95% C.I. 1.23-2.66)であった (傾向性の検定;  $P < 0.001$ )。この飲酒とPWVの関連は、BMI 24.2kg/m<sup>2</sup>未満では24.2kg/m<sup>2</sup>以上より強く、非喫煙者では喫煙者より強かった。

結論

本研究の結果から、アルコール摂取は日本人の中年男性において大動脈脈波伝導速度の上昇をもたらす危険因子と考えられた。